□初夏の會として、是非、カラッと晴れたお天氣であつてほしかつたが、生憎、ドンヨリした何だか頭痛でもしそうなお天氣だつたのが、返す〳〵も惜かつた。筆記席に落ちつかぬ腰を下して、向ふ側のテーブルの上の、シネラリヤの紫の花にさす淡いかげを眺めてゐる中に、開會の辭がすんでしまつた。

□校長先生は、御都合がおわるくて御出席がなかつたが、下村先生、齋藤先生、垣内先生、小此木先生はじめ、澤山の先生方が御出席下さつた事は、會員の大きな喜であつた。會員が熱心に聞いて呉れたのもうれしかつた。熱心に話をきくといふ事が、どんなに講演者に、力强さを與へるかわからない。

□二階堂先生の御話は談叢にゆづるが、四番目の「過去に於ける日本の女子」といふ問題は何しろ彭大な題材である。今日は、これを時代別にし、家庭に於ける女子の社會に於ける女子――といふ風に列述された。これも一法である。然し、これはもつと年代を狹くするか、または、限つた一つの問題を捕へて、これを深く、狹く突つ込んで研究したならば、或は、より一層成功しはしないかしら。それはそれとして、お天氣の故か、日が早く暮れる樣に思つて、先をいそいだ結果、最後の部分等は省略した所が多く、講演者には大變氣の毒であつた。三人の方の話の間に統一がない樣に思はれたならば、それは、講演者の罪ではなく責任はこちらにある事を御斷りして置く。

□朗讀は今度も大變よかつた。吾々は、今後もこの方面について、もつと研究して行きたい。

□豫定の通り四時過に閉會した。今度の會は、何だか不用意であつた樣に思つて、後片付をしながら限りなく淋しかつた。次の會からは、もつと努力し、もつとどうかしやうと祈りながらこの稿を終る。

（六、一五、K、H、）

■第十一回會計決算報告（自大正四年三月十一日 至仝 仝 六月廿三日）

一、收入金額　九六、一〇〇円

内譯
- 第三學期繰越高　五五、八〇〇円
- 賛助員二〇名會費　一八、八五〇
- 會員一四一名會誌實費　二一、四五〇

一、支出金額　五七、二九〇円

内譯
- 會誌發送料　五、〇〇〇円
- 會誌第十一號四百五十部印刷代　四九、九七〇
- 雜費　二、三二〇

一、差引殘高　三八、八一〇円

右之通り相違無之候也

大正四年六月二十三日

文科會會計係

■會費領收

大正參年度分

山邊ふみ　野津みどり　高橋すゑ　鹽澤ふき　有木ふく

大正四年度分